

第 37 回 一宮市地域公共交通会議議事録

【開催日時】

令和 5 年 3 月 23 日（木） 14：00～16：00

【開催場所】

オリナス一宮 3 階 多目的ホール

【傍聴人】

2 人

【議事内容】

1. 開会
2. 第 36 回地域公共交通会議での意見に対する事務局の考え方について

- ・事務局より資料説明

3. 議題

報告事項

(1) 市内バス路線等の利用実績

- ・事務局、名鉄バスより一宮市内を運行する路線バス（iーバス、名鉄バス）、iーバスミニの利用実績を報告

《質疑応答》

- ・iーバスミニの往復はどちらか。また、往復でこのように大きく違うのか。

→往路はiーバスミニ停留所からバス停へ向かう方、復路は反対としている。ご指摘通り、行きは多いが、帰りが少ない状況にある。（事務局より回答）

- ・尾西コースは90%まで回復しているが、利用促進を行ったのか、地域性なのか分かれば教えていただきたい。理由が分かれば、次年度のヒントにつなげることができる。

→尾西コースのみ、特に何かしたことはない。（事務局より回答）

《意見・要望》

- ・行きが多く、帰りが少ない事例が多く見受けられる。行きは時間が決まっているため

予約しやすい、帰りは時間が未定のため予約しにくい。特に、iーバスミニは本数が少ないため、帰りは別の交通手段となっている傾向が見えている。現状においては経路検索ができないため、市外からの利用者は利用しにくい。また、木曾川・北方の利用が低迷しているのは、使い勝手が悪いこともあるが、そのほかの要因も考えられる。きわめて深刻なコースである。

- ・毎年利用者数の推移を出していただいているが、路線全体の利用者数を見ても、状況をきちんと把握できない。コミバスについては、収支率や公的負担率もあわせて、分析する必要がある。今後、整理して分析をお願いしたい。単費補助を入れている路線バスについても、別途把握する必要がある。例えば、乗務員確保、法律基準変更による車両費増額など、理由が分かる増額であればよいが、その判断もできない状況である。

- ・バスの場合は、きちんとデータを取得することが難しい場合が多いため、国庫補助を投入していただきたいとの議論もはじまっている。ご指摘いただいた内容については、大切にしていると認識している。

- ・木曾川地域の代表者が十数名集まり、地域の在り方について議論する場面があった。目的地へしっかりと安全にいけるかどうか、住民の関心事である。現在のコースは一方方向であり、時間がかかる。これが使いづらい最も大きな理由である。地域の中央に、JRと名鉄が通っており、鉄道の利用は便利であるが、少し離れた地域においては、公共交通が不便な地域が多い。iーバス改善の要望もたくさん出ており、今後の検討課題と考える。

- ・名古屋からの来訪は簡単・早い地域であるが、鉄道駅を降りた後の交通が課題である。一宮市内においても、この地域の改善が重点課題であると認識している。

報告事項

(2) 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

- ・事務局より資料説明

《質疑応答》

・事業評価のABC評価の基準を教えてください。

→ABCの明確な基準はないが、Aは目標に概ね到達できた、Bは取り組んでいるが宿題がある項目、Cは取り組めていない項目と認識している。(事務局より回答)

→ABCについて、年度当初の補助金申請時の目標に対し、適切に取り組んでいただいているかについて判断し、記載している。事務局のご説明の通り、Aは概ね対応できている項目、Bは引き続き取り組んでいただきたい項目である。(運輸支局より回答)

→国庫補助を出している市町村に対しては、このようなシステムでチェックしている。
(会長より回答)

協議事項

(3) 第2次一宮市公共交通計画の延長について

○計画の目標値について

《意見・要望》

・市内バスの年間利用者3,775千人について、すでに利用者数が戻ってきている中で、この数値でよいのかどうか。令和4年度の実績を維持するなどとしてはどうか。

・「令和4年度実績以上とする」などはどうか。

→ご提案いただいた内容で、進めたい。(事務局より回答)

・一日券、回数券などの販売枚数についてはどうなのか。

→売上が大きく落ち込んでいるため、現状(令和4年ベース)の販売枚数から再計算した数値をしめしている。(事務局より説明)

・コロナ禍の影響が分からなかった時期に策定したため、目標が大きく乖離している。

市内バスの年間利用者数と一日券、回数券などの販売枚数は、令和4年度実績を上回る内容としたい。また、分かりやすいように、令和3年まで実績値も掲載してほしい。議論したこの内容でよいか、賛成いただける委員は挙手願いたい。

《協議結果：全員賛成》

(4) 第3次一宮市公共交通計画について

報告事項

○公共交通に関する住民懇談会の開催結果について

《質疑応答》

・どのような方が参加されたか。

→参加者について、連区長に相談し、多様な方の意見を伺いたいため、役員の方、地域の方、女性会の方、利用者など、30代～70代まで多様な方に参加いただいた。(事務局より回答)

・尾西地域でも、順番に開催いただけるか。

→どのように開催するかは考える必要があるが、順番に開催していく予定である。(事務局より回答)

《意見・要望》

・利用者の意見は、改めてお聞きすることも大事である。話し合いは何度も議論が必要であり、きちんと参加していただける人数として約20人程度と考えられる。

・全市民へ配布する必要があると考える。

→ご指摘通り、月末の回覧板で、町内へ回す予定である。(事務局より説明)

・普段、車移動されている方は、このような内容に関心がない。もっと地域の方にしってもらうことが大事である。本当に必要な方が多くいると考える。必要であれば、誰でも参加できるようにしていただきたい。

・意見が大きい方の声ばかり聴いても、良い提案にはつながらない。多様な方の参加が重要であり、議論が必要である。懇談会は、アンケートや投票とは異なり、具体的に住民と議論していく必要がある。木曾川、北方であれば、1～2年で重点的に取り組みたい。また、ある程度結果が出てくると、更に改善案が出てくるのではないかと。本当に乗りたい方がいても、利用されない場合が多い。やはり、地域で大切に議論を進めることが重要である。

- ・この会議には、iーバスを利用して来たが、5名の利用があった。1時間半に1本のため、時間を合わせる必要がある。
- ・実際乗務しているが、木曾川・北方コースについては一方方向のため、他コースと比較し利便性が低い。また、本数も少ない。このコースのみ、利用の戻りが少ないことも理解できる。コロナ禍で得た違う交通手段から戻っていないことが想定できる。高齢者の利用が多いイメージであり、固定の利用者が多い。現場から、新規の方の利用は難しいと感じている。
- ・貴重な意見であり、乗務員の方へのヒアリングもしたいと考える。ご協力いただきたい。
- ・iーバスミニを担っているが、これだけの広域エリアにおいて、住民全員を満足させることは大変難しいと考える。地域において、それぞれの事情がある。例えば、木曾川にはタクシーの営業所がなく、さらに2重堤防の問題がある。中心部でタクシーを回すことのみでいっばいであり、木曾川まで対応できない。タクシー会社1社での活性化は難しい。他のタクシー事業者との連携、鉄道やバスとの連携が重要である。国でのリデザインの議論は、一宮市の現状がしっくりとくる。優先順位をつけて議論していけると良い。平日の昼間の通院や不便な地域への対応などが重要か。工夫していく必要がある。本当に、住民は何が必要か、この会議で議論していきたい。
- ・計画策定においては、幹事会を設定している。より詳細に議論する必要があるれば、部会を設置することもできる。一宮市は中核市の中でも中山間地がなく、ある程度コンパクトである。他の都市では各地区での議論もあるため、一宮市でも連区ごとの議論も可能である。住民懇談会について、委員の皆様へ告知してはどうか。

協議事項

○公共交通計画の骨子について

- ・幹事長である名古屋大学より資料説明

事業たたき案に対し、交通事業者からは乗務員不足も含めて対応できないとの意見をいただいている。しかし、当たり前のように、バスやタクシーが走っていることは有り得ない

時代となっており、現在の路線維持も難しいことを市民の皆様にも知ってもらうことが大事であるとする。20年前と比較し、一宮駅周辺の賑わいが明らかに低下してきている。車が便利になっている、郊外の便利な店舗へ市民が流れていることも大きな要因であり、市民の理想と現実にギャップがあると考えている。名古屋駅から一宮駅までは新快速で大変便利であるが、一宮駅から自宅までの交通がない状況にあり、中核市としてはサービスが低い。これからは、利用者の相応の負担、行政からの支援など、多様な対応が求められる。公共交通への公的負担について、愛知県内の市や岐阜市と比較すると一宮市は200円/人であり、一番少ない状況にある。例えば、豊田市などは約2,000円/人となっている。これは、名鉄バスの努力のおかげであるといえるが、これからはもう少し行政からも支出が必要であるとする。

《追加説明》

・8つの事業群について、利用者や地域の方との議論を得て、取り組んでいきたい。生活圏は市外へも及ぶため、近隣市町との情報交換しながら進めていきたい。(事務局)

■新たなモビリティサービスの検討について

《質疑応答》

・どのような考えがあるのか。

→高齢者のシニアカーをはじめ、人が移動するための手段全般を考えている。(事務局より回答)

・電動キックボードよりは、高齢者の移動を検討するとのことか。

→規模や具体的内容については、議論できていない。キックボードも選択肢としてあるとは考えており、導入時の課題などもあわせて議論を進めたい。(事務局より回答)

《意見・要望》

・議論にあたっては、警察とも議論・調整をお願いしたい。

・現在の道路上でも問題ない交通手段もあれば、課題のある交通手段もある。一宮市で

は、まずはニーズの把握から始めると思うが、安全は最重要であるため、ご提案通り、警察とも連携しながら進めたい。

・5年間など期限を区切った計画となる。導入するモビリティサービスによって実験期間や課題なども変わってくるため、総合的に議論をお願いしたい。計画策定段階においては、他計画と調整されると考える。総合的な計画として策定をお願いしたい。また、道路の整備状況も大きく影響あると考えるが、自転車の走行空間も意識されており、公共交通分担率への影響もあるため、多様な視点からの議論をお願いしたい。

・自転車については、道路空間の再配分の問題である。これまで、自動車中心の道路であったが、他の交通手段も活用して再配分しようというこの数年の流れである。駅前空間を今後どのようにしていくかの議論とあわせて考えていく必要がある。そのため、この5年間で取り組めることと、もう少し中期的な内容となる場合もある。

・実験を実施する場合は、ある意味確信をもって取り組める、本格運行につながる内容であることが重要である。また、鉄道駅をどうしていくかも、課題である。例えば、木曽川駅、新木曽川駅、木曽川堤駅、黒田駅などをどうしていくのか。新木曽川駅は車が入りにくいなどの課題もある。名古屋鉄道にも会議へ出席いただいております、鉄道のことも含めて議論していきたい。

→持ち帰り、社内で議論したい。(名鉄バスより説明)

■21時～22時台の運行確保について

《意見・要望》

・コロナ禍の影響による行動変容で、22時以降の利用がかなり減少しているため、営業車両を大きく減少させているため、乗合タクシー運行が難しい。また、定時定路線かどうかなど、課題とあわせて営業方法の議論が必要である。名鉄タクシーだけではなく、他のタクシー事業者においても、同じアプリを活用できるように、取り組んでいくことが必要であると認識している。デジタルクーポンについては、商業との連携も考えられる。具体的な実現可能な

内容について精査し、取り組んでいきたい。

・現在の段階では、項目として削除せず、継続した議論としたい。現在の一宮市では空車時間も多く、非効率である。そのため、同じ方向へ走行する乗合タクシーとして運行し、乗務員の給料増加へ反映するところまで取り組みたい。このような具体的な取り組みを議論するため、項目としてあげている。バスでもタクシーでも、乗務員が少なくても、効率よく運行し、利益をあげていける企業としたい。

・具体の制度設計については、しっかりと議論したい。現在の方法を継続するのではなく、利用者の利便性向上や乗務員は給料増加など、どのように幸せになるかが重要である。

・新しい取り組みを進めるためには、システム導入などに対し、ある程度行政の支援が必要である。名鉄グループとしても、新しいあり方について、どう横展開していくかが、重要であると考えている。

・夜間については、若い方の利用であり、アプリの活用が想定できる。スマホ所有していない方には、例えば、駅の改札口にタブレット設置なども想定できる。全国的な課題であり、一つの解決策として実践できるのではないかと。

■DXについて

《質疑応答》

・DX、トリップ、居住誘導区域とはどういうことか。協賛金集めは実施しているのか。
→DXは、ようするに、デジタル技術を活用することで、いろんな仕組みを変えていこうということ。トリップは移動回数のことである。立地適正化計画において、居住誘導区域等を設定している。協賛金について、一宮市では早い段階で実践しているが、現在では全国的に取り組んでいる内容である。用語集を入れる必要がある。(会長より回答)

《意見・要望》

・交通DXは令和5年度の大きな課題であり、一宮市において、地域のすべての交通事業者が参画した取り組みを進めてはどうか。国庫補助をお願いすることも想定できる。

・まずは、非効率である iーバスミニのリニューアルが重要ではないか。例えば、木曾川堤駅にアクセスするなど、目的地の追加が考えられる。

・いかにニーズをまとめて、市民に同じように動いていただき、効率化することで、バスやタクシーも生き残るかが重要である。国の新しいスキームも活用したい。アプリ利用に限り、運賃を安くする、ポイントをためるなど工夫をすることで高齢者でも利用いただけるのではないか。

・現在でもコールセンターの電話が鳴りっぱなしの状態であり、高齢者にもアプリを活用していただきたいと考えている。アプリを活用することで、2社のタクシー会社の利用が可能である。

・スマホの利用は、やはり高齢者は難しい。

・高齢者でもアプリ利用されている方もおり、市役所でアプリ講習会を開催することも考えられる。

■事業群について

《意見・要望》

・事業群⑥に近隣市との連携について、追加してはどうか。また、タクシーで新しいシステムを導入するのであれば、⑦に相乗りシステム構築を追加してはどうか。

■基本方針について

《意見・要望》

・もう少しインパクトがあると良い。基本方針や目標について、中核市にふさわしいとは何か、ウオーカブルで良いのか、市民と一緒に良いのか。精神は良いが、言い方をもう少し議論・精査したい。

・市民だけではなく、事業者も入れてはどうか。

■骨子について

・本日の意見内容を踏まえて更新を行い、会長・副会長のチェックを入れて、進めたい。全体として、このような方針で良いか。

《協議結果：全員賛成》

協議事項

○計画策定のスケジュールについて

・事務局より資料説明

《質疑応答》

・最終案は12月が確定か。

→可能であれば、このスケジュールで議論を進めたい。(事務局より回答)

《意見・要望》

・皆さまにもご協力いただき、進めていきたい。交通会議については、大きな課題があれば、臨時の開催もあり得る。このようなスケジュールで取り組んで良いか。

《協議結果：全員賛成》

4. その他

5. 閉会